

## 情 報 公 開 文 書

研究の名称	高感度アデノシン三リン酸測定による迅速な抗菌薬感受性試験法の開発
整理番号	臨30-26
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	富山大学附属病院 医学部 臨床分子病態検査学講座・教授 仁井見英樹
研究の概要	<p>【研究対象者】2018年10月4日～2026年3月31日に富山大学附属病院に外来受診・入院する患者様で、血液中に細菌が検出された患者様（約400例を予定しています）</p> <p>【研究の目的・意義】近年、がん治療や移植医療などによって、重篤な細菌感染症（特に血液中に細菌などが検出される菌血症）が増えています。救命のためには、血液中の細菌を可能な限り早く検出・同定だけでなく、その細菌がどの抗菌薬に有効であるか（感受性）を判定する必要があります。しかし、従来の方法ではその判定に約3日を必要とし、その結果として判定までに病状が進行して救命可能な命が失われるリスクが残っています。我々はこの問題の解決のために、24時間以内に感受性を判定する検査システムを開発しました（国内特許出願：特願2017-219547）。この研究では、この新規開発した試験法を実際に運用し、従来の方法との差を確かめることにあります。</p> <p>【研究の方法】従来の検査試料の残りをを用いて、そこから細菌のみを取り出して抗菌薬感受性を解析し、従来法の結果と比較します。この研究のために改めて試料を採取することはありません。</p> <p>【研究期間】2018年10月4日～2026年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】学会・論文発表あるいは公開の報告書といった形で行われますが、特定の個人が発表成果から同定できないように十分配慮されます。</p> <p>【利益相反に関する状況】運営費交付金（校費）を受けて実施</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	従来の検査試料の残余検体および検査結果（菌種および抗菌薬感受性結果）を用います。本研究に関する試料・情報は富山大学附属病院内のみで解析を行い、解析情報は個人が特定される可能性のある個別データを全て削除した上で保管します。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院 医学部 臨床分子病態検査学講座・教授 仁井見英樹
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学附属病院 医学部 臨床分子病態検査学講座・教授 仁井見英樹
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7759</p> <p>FAX 076-434-7759</p> <p>E-mail hiniimi@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 富山大学附属病院 医学部 臨床分子病態検査学講座 教授 仁井見英樹</p>